

2016年10月期第2四半期 決算説明会資料

2016年6月10日
株式会社モルフォ
(東証マザーズ：3653)

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

目次

1

2016年10月期 第2四半期決算概要

2

2016年10月期 下期戦略

3

2016年10月期 戦略商品のご紹介

1

2016年10月期 第2四半期決算概要



Morpho

第2四半期 連結損益計算書/貸借対照表

単位：百万円

連結損益計算書

科目	2015年10月期 第2四半期累計	2016年10月期 第2四半期累計	増減額
			増減率
売上高	1,042	1,040	▲1 (▲0.2%)
営業利益	428	426	▲2 (▲0.5%)
経常利益	477	364	▲112 (▲24%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	349	258	▲91 (▲26%)

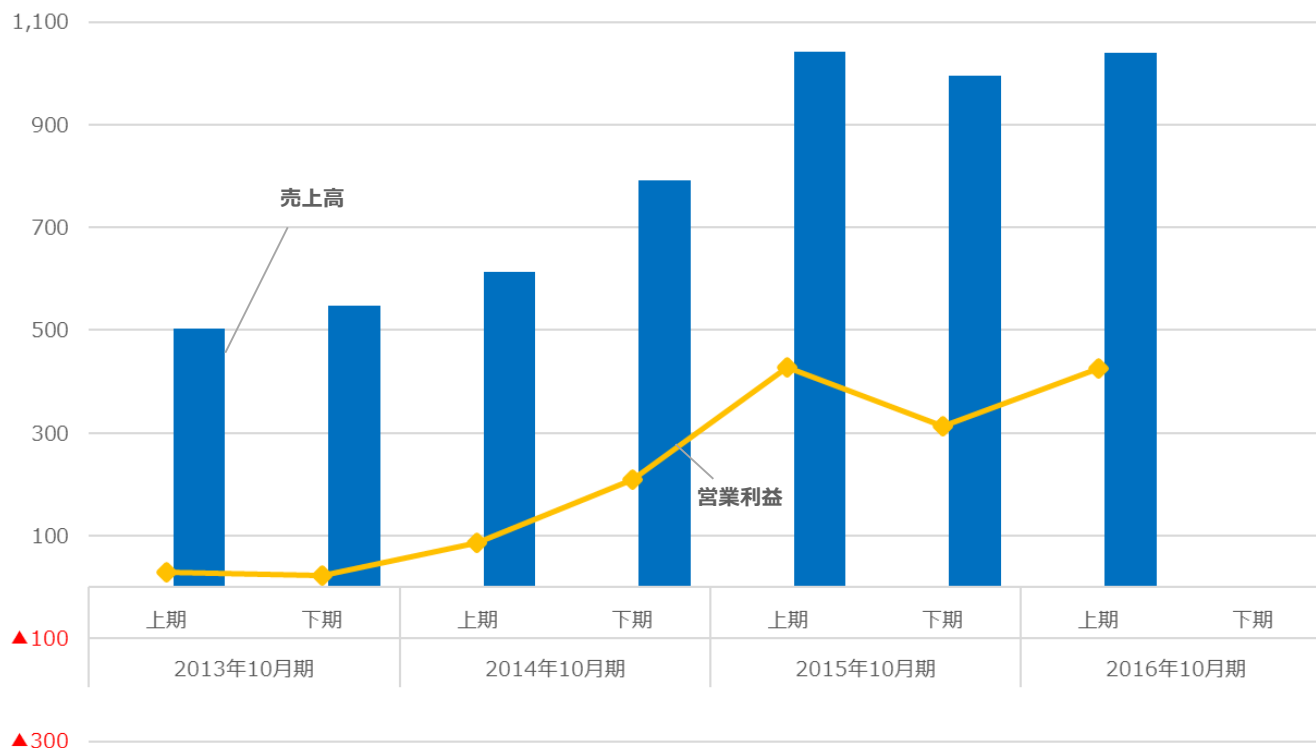
連結貸借対照表

科目		2015年10月期	2016年10月期 第2四半期末	前期末対比		
				増減額	増減率 %	主な要因
	流動資産	2,654	3,484	+830	+31%	【流動資産】 現預金+872百万円、売掛金▲27百万円 【固定資産】 有形固定資産 +29百万円 繰延税金資産 ▲22百万円
	固定資産	288	313	+24	+9%	
資産合計		2,942	3,798	+855	+29%	
	流動負債	546	224	▲321	▲59%	【流動負債】 未払法人税 ▲152百万円 未払金 ▲83百万円 【固定負債】 長期借入金 ▲12百万円
	固定負債	70	65	▲5	▲7%	
負債合計		616	289	▲327	▲53%	
	株主資本	2,297	3,490	+1,193	+52%	【株主資本】 資本金/資本剰余金 +624百万円 利益剰余金 +258百万円
	純資産合計	2,325	3,508	+1,182	+51%	
負債・純資産合計		2,942	3,798	+855	+29%	

半期業績の推移

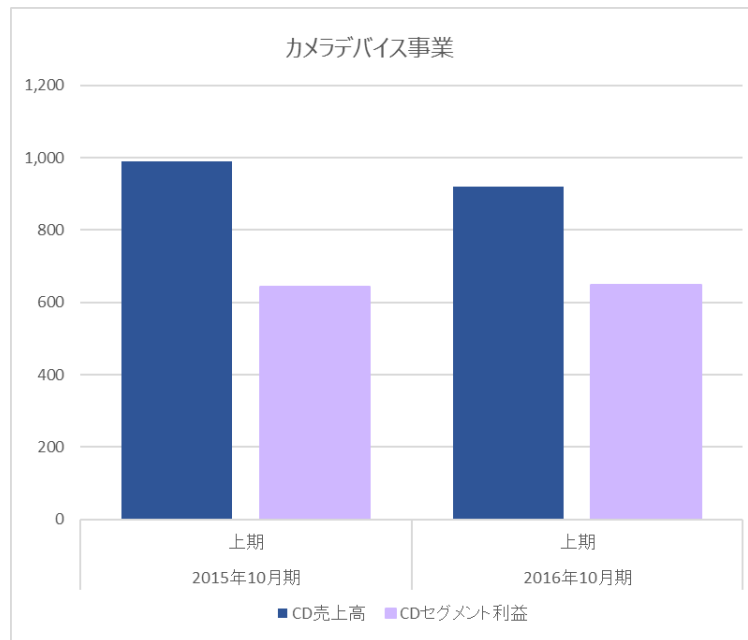
単位：百万円

科目	2013年10月期		2014年10月期		2015年10月期		2016年10月期
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
売上高	502	547	614	791	1,042	995	1,040
営業利益	30	22	85	209	428	313	426
営業利益率	6%	4%	14%	26%	41%	31%	41%
経常利益	50	22	93	235	477	307	364
親会社株主に帰属する 当期純利益	42	▲12	60	248	349	253	258



カメラデバイス事業

科目	2015年10月期	2016年10月期	
	上期	上期	増減 (対前年同期比)
売上高	989	920	▲68
セグメント利益	643	648	+5
セグメント利益率	65%	70%	+5%



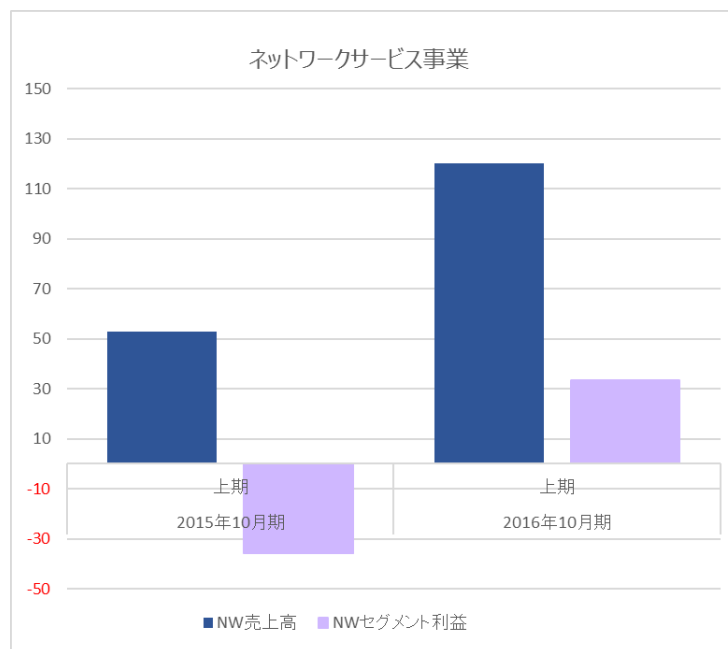
・「カメラデバイス事業」は中国顧客向の収入が大幅に増加したものの、他国・他地方でのロイヤリティ収入減により売上は前年同期比▲7%減
セグメント利益率については、協力企業などに対する支払手数料等費用が減少したため前年同期比+5%増



当社グループは事業セグメントを区分開示する重要性が乏しかったため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、2016年10月期第一四半期より、量的な重要性が増加したことに伴い、「カメラデバイス事業」「ネットワークサービス事業」の2つを報告セグメントとさせていただきます。前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を当該報告セグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

ネットワークサービス事業

科目	2015年10月期	2016年10月期	
	上期	上期	増減 (対前年同期比)
売上高	52	120	+67
セグメント利益	▲35	33	+69
セグメント利益率	▲67%	28%	+95%



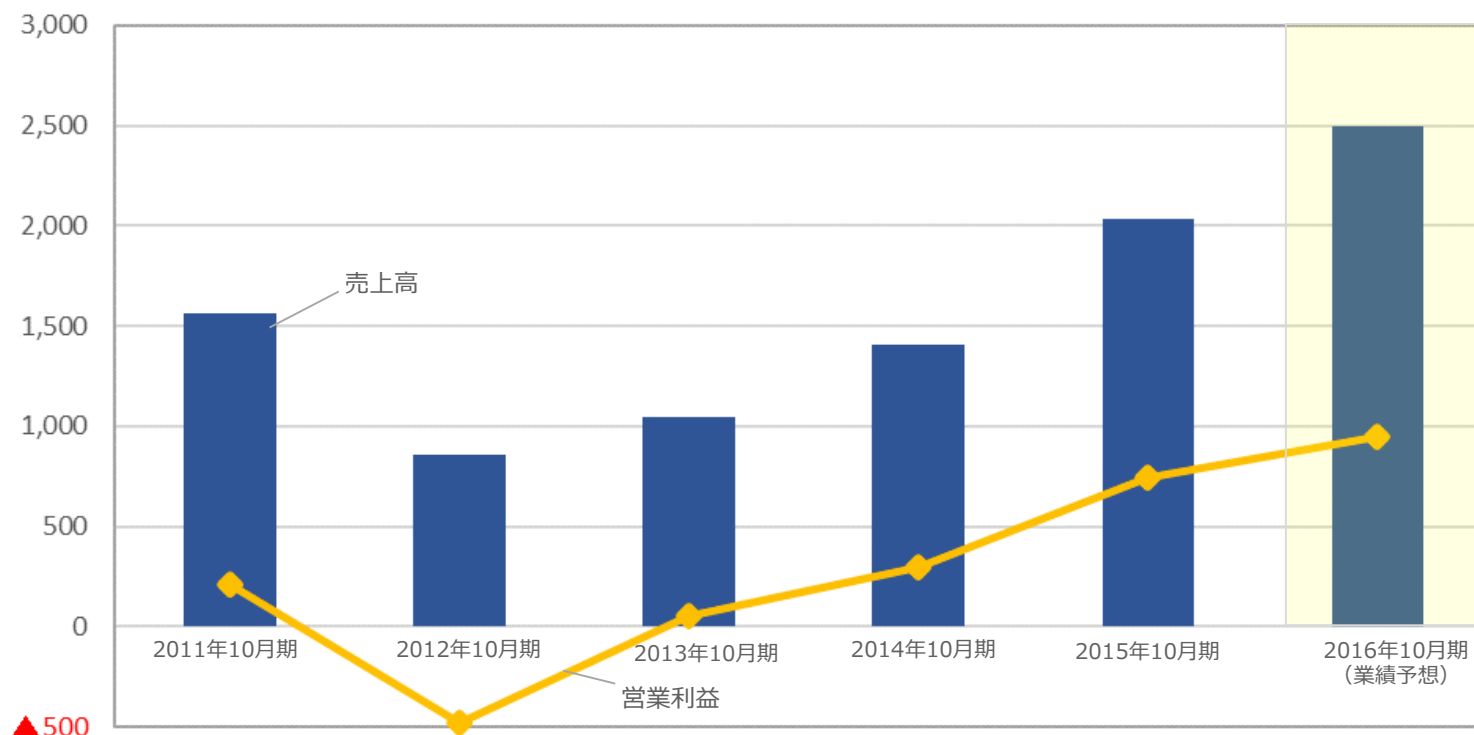
「ネットワークサービス事業」はロイヤリティ収入に結実した案件が増加したこと、および建設・FA(ファクトリーオートメーション)・放送等の新規事業領域において試作案件を獲得したことにより売上は前年同期比120.7%増
セグメント利益率は前述の売上高増加により、前年同期比+95%増



当社グループは事業セグメントを区分開示する重要性が乏しかったため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、2016年10月期第一四半期より、量的な重要性が増加したことに伴い、「カメラデバイス事業」「ネットワークサービス事業」の2つを報告セグメントとさせていただきます。前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を当該報告セグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

単位：百万円

科目	2011年10月期	2012年10月期	2013年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2016年10月期 第2四半期累計	2016年10月期 業績予想
売上高	1,565	855	1,049	1,405	2,037	1,040	2,500
営業利益	208	▲479	52	295	742	426	950
営業利益率	13%	▲56%	5%	21%	36%	41%	38%
経常利益	181	▲472	73	329	785	364	950
当期利益	76	▲557	30	309	604	258	635

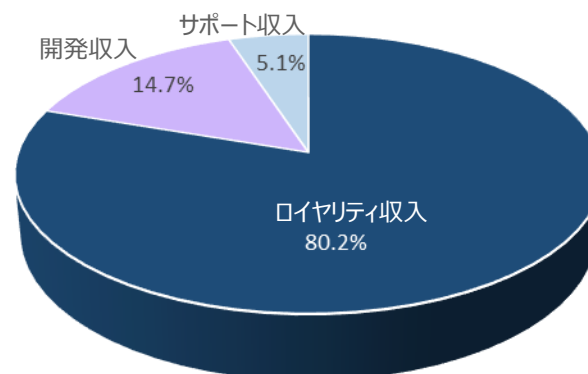
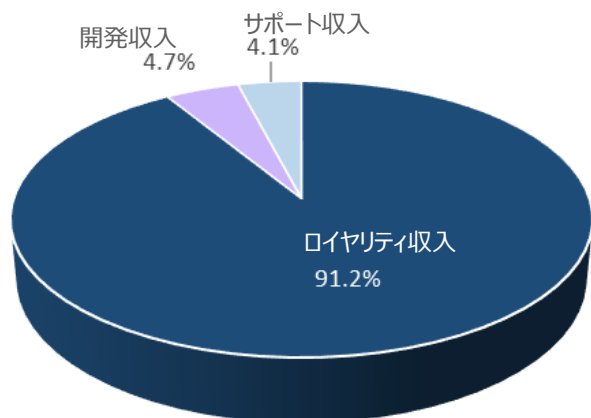


※ 2011年10月期以前の個別決算と2012年10月期以降の連結決算を比較しております。
(2012年10月期に子会社を設立し、連結決算へ移行しました。)

売上高構成 –前年比較

単位：百万円

収益区分	2015年10月期 通期		2016年10月期 第2四半期	
	金額	割合 %	金額	割合 %
ロイヤリティ収入	1,858	91.2%	834	80.2%
開発収入	96	4.7%	153	14.7%
サポート収入	82	4.1%	52	5.1%
合計	2,037	100.0%	1,040	100.0%



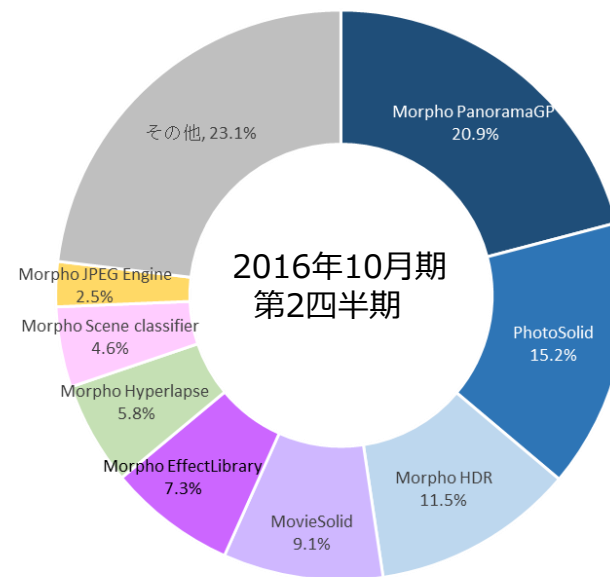
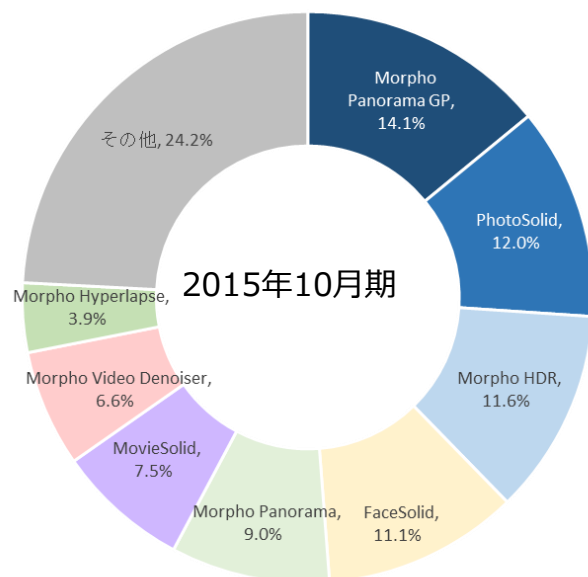
新規事業分野での開発案件増加に伴い
対前期(通期)開発収入+10%

ソフトウェア製品別の売上高構成

単位：百万円

製品名	2015年10月期 通期	
	金額	割合 %
Morpho Panorama GP	286	14.1%
PhotoSolid	244	12.0%
Morpho HDR	237	11.6%
FaceSolid	225	11.1%
Morpho Panorama	183	9.0%
MovieSolid	152	7.5%
Morpho Video Denoiser	134	6.6%
Morpho Hyperlapse	79	3.9%
その他	492	24.2%
合計	2,037	100.0%

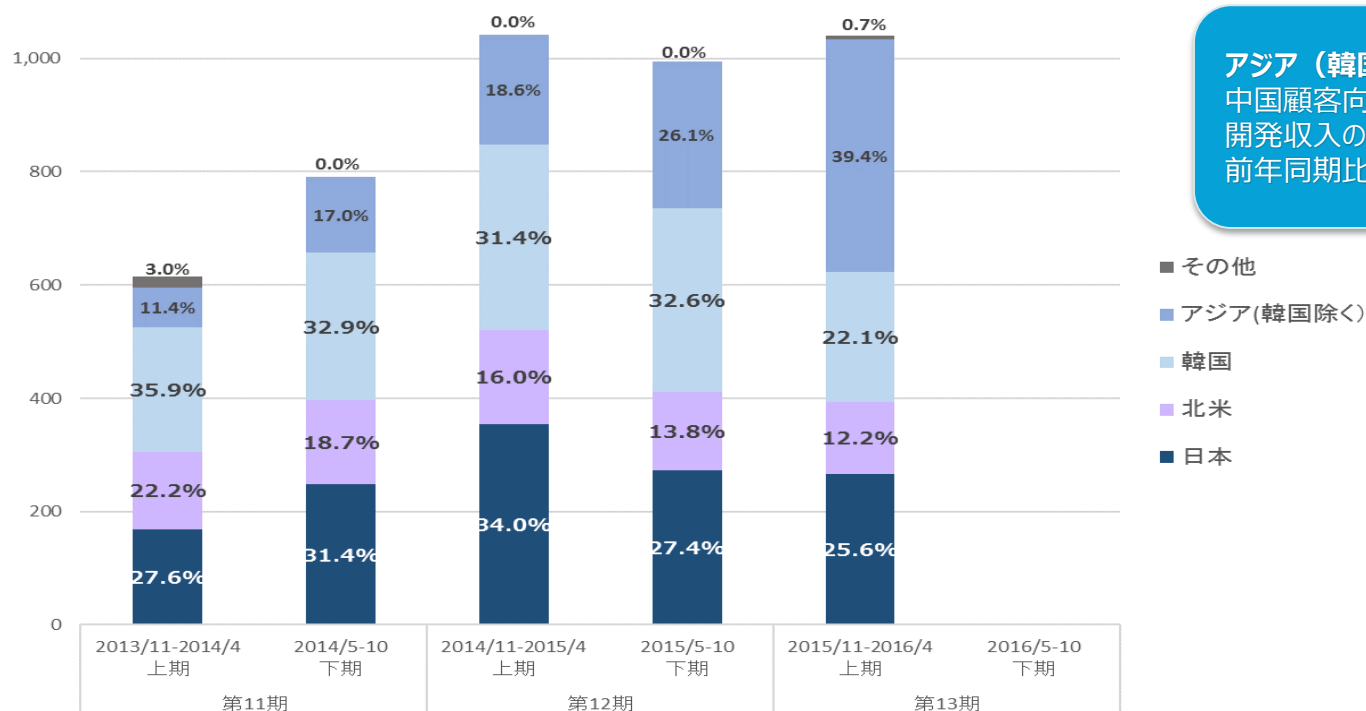
製品名	2016年10月期 第2四半期	
	金額	割合 %
Morpho Panorama GP	217	20.9%
PhotoSolid	158	15.2%
Morpho HDR	119	11.5%
MovieSolid	94	9.1%
Morpho Effect Library	75	7.3%
Morpho Hyperlapse	60	5.8%
Morpho Scene classifier	47	4.6%
Morpho JPEG Engine	26	2.5%
その他	240	23.1%
合計	1,040	100.0%



地域別売上高推移

単位：百万円

地域	2014年10月期 上期	2014年10月期 下期	2015年10月期 上期	2015年10月期 下期	2016年10月期 上期
日本	169	248	355	273	267
北米	137	148	166	138	127
韓国	220	261	327	325	230
アジア（韓国除く）	70	134	194	259	410
その他	18	0	0	0	7
合計	614	791	1,042	995	1,040



アジア（韓国除く）の売上は
中国顧客向けのロイヤリティ・
開発収入の大幅増により
前年同期比+111%増

画像引用先（2016年3月確認）
<http://internet-illustration.com/01-free/009-europe.html>

2

2016年10月期 下期戦略



Morpho

連結損益計算書

科目	2015年10月期	2016年10月期 業績予想	
	(通期実績)	(通期)	増減額
売上高	2,037	2,500	+462
営業利益	742	950	+207
経常利益	785	950	+164
親会社株主に帰属 する当期純利益	604	635	+31
1株当たり 当期純利益	122.46	123.07	+0.61
円 銭			

※当社は、平成27 年5 月1 日付で普通株式1 株につき3 株の割合で株式分割を行っております。

『全ての「カメラ」に知能を持たせる』

画像処理と画像認識技術を融合する事で
IoV（Internet of Vision）の世界を実現する

Computational Photography

×

Deep Learning

戦略 1

カメラデバイス事業の伸長・拡大

戦略 2

ネットワークサービス事業の確立

IoVの世界を実現

Deep Learning

多層構造の最先端ニューラルネットワーク技術による機械学習

Search

- ・シーン認識
- ・タグ付け
- ・物体検出 等

画像処理と画像認識技術を融合する事で
IoV(Internet of Vision)の世界を実現

Shoot

- ・手ブレ補正
- ・パノラマ撮影
- ・HDR撮影／WDR補正
- ・ノイズ除去 等

Show

- ・高速フォトビューワ 等

Computational Photography

カメラの物理的・光学的な限界から生じる課題を
軽減・解決することを目的とした技術

カメラの課題解決による カメラデバイス事業の新規立ち上げ・拡大

- 既存技術の強化・進化
 - ＞＞ 競合打破でスマートフォン向けシェアNo.1へ
- 中国企業へのアプローチ強化
 - ＞＞ Thundersoft社との協業を強化し中国企業へ参入
- 新規カメラデバイス事業立ち上げ
 - ＞＞ 車載、業務・産業機器、監視カメラ市場等

第13期の課題

第13期の進捗

戦略 1 カメラデバイス事業 の伸長・拡大

・既存技術の強化・進化
＞＞ 競合打破でスマートフォン向けシェア
No.1へ

・中国企業へのアプローチ強化
＞＞ Thundersoft社との協業を強化し
中国企業へ参入

・新規カメラデバイス事業立ち上げ
＞＞ 車載、産業機器、監視カメラ市場等

・既存技術の強化
-15億ライセンス達成
-新規顧客の獲得及び新規搭載
(Cadence社、BQ社、Nextbit社等)
-Morpho Dehazer発表

・中国市場での売上拡大
-ロイヤリティ収入の増加

・デンソー社との業務提携
-新規技術開発への参入
-新規事業領域での知名度向上

更なる技術力の強化・中国市場でのPartnership強化・新興市場への取組みでシェア拡大へ

Deep Learningを用いたネットワークサービス事業の強化

■ FA・建設・車載関連

>> Deep Learningを用いたクラウド向けシステムの拡販

■ 放送局関連

>> 放送局へのクラウド向け動画ソリューションの立ち上げ

■ 事業の選別と立ち上げ

>> 大手既存顧客のライセンスビジネス獲得活動への集中

第13期の課題

第13期の進捗

戦略2 ネットワークサービス 事業の確立

- FA・建設・車載関連
 - >> Deep Learningを用いたクラウド向けシステムの拡販

- 放送局関連
 - >> 放送局へのクラウド向け動画ソリューションの立ち上げ

- 事業の選別と立ち上げ
 - >> 大手既存顧客のライセンスビジネス獲得活動への集中

- 新規事業領域での採用
 - 前田建設社にてDeep Learning製品の採用
 - Morpho Deep Learning System発表

- 放送局関連への知名度UPへ
 - NAB SHOW2016へ初出展
 - 日本放送協会(NHK)への新規採用
 - 規模の大きな展示会を通じて顧客ニーズへの柔軟な対応を目指す

- 既存顧客のライセンス契約
 - 新規ライセンスビジネスの拡大
(NTTコミュニケーションズ社、富士フイルム社等)

当社第2の新規事業領域として順調に成長中
Deep Learningを軸に幅広い分野への進出を目指します

下期においても引き続き、下記戦略を以って取り組んでまいります。

1. カメラデバイス事業の伸長・拡大 2. ネットワークサービス事業の確立

1. カメラデバイス事業の伸長・拡大

- ・海外スマートフォンメーカーへの製品採用数の拡大
- ・Thundersoft社との協業を強化し中国市場での拡大
- ・スマートフォンの新興市場への取組みを本格化
- ・車載等の新規カメラデバイス事業における営業活動の拡大
- ・新製品開発、中長期視点での研究開発を活性化

2. ネットワークサービス事業の確立

- ・ネットワークサービス展開に向けたサービスの充実と拡大
- ・Deep Learningを用いたクラウドサービスの拡大
- ・新規ライセンスビジネスの拡大
- ・放送局向け動画ソリューションの海外市場も視野に入れた取組み

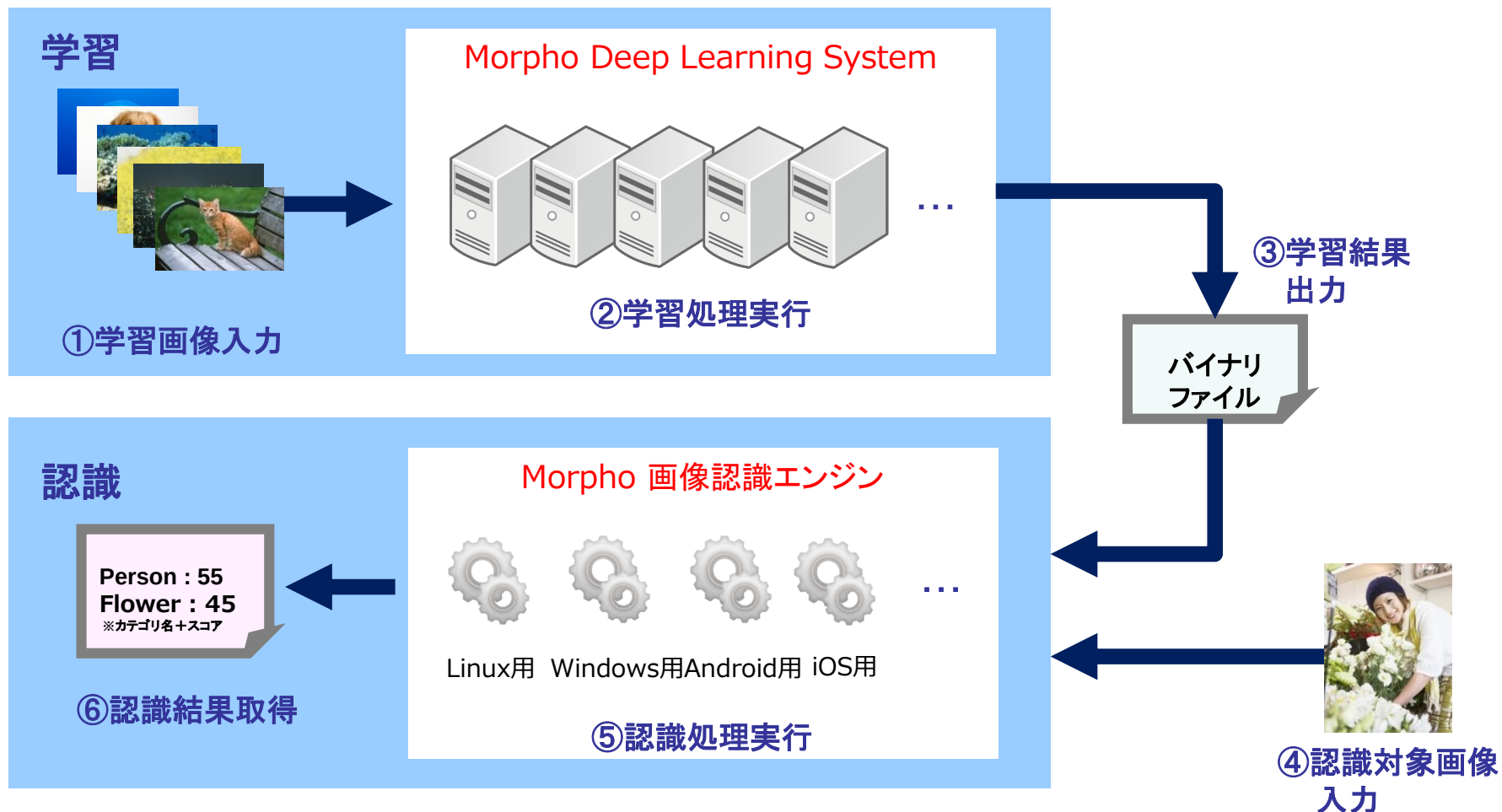
3

新製品のご紹介



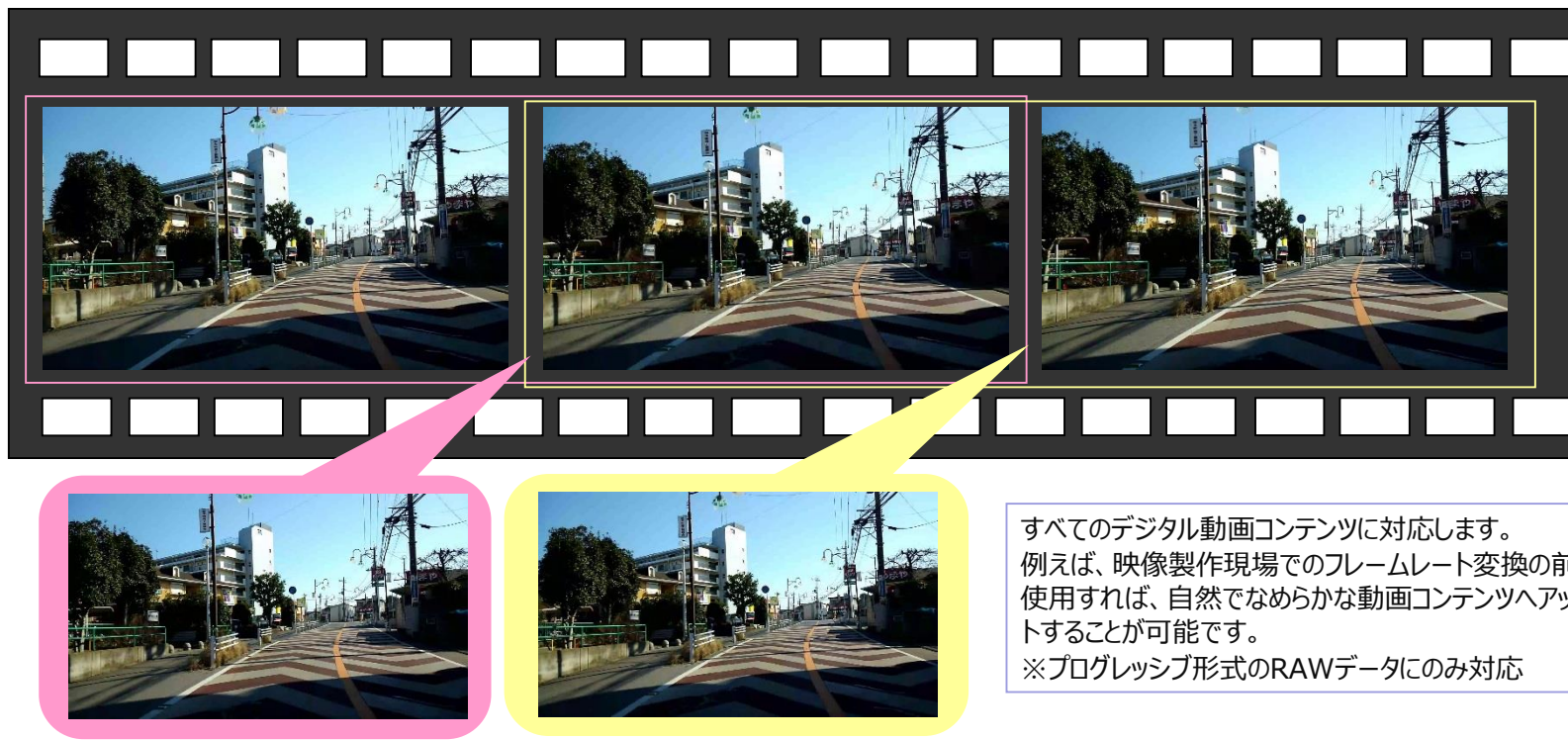
Morpho

- 学習から認識までの流れ



フレーム補間エンジン

- 自然でなめらかな動画再生を実現
- 4Kフレーム入力に対応
- ターゲットに最適化されたCライブラリで提供
- あらゆる補間フレーム数に対応
例) 30p → 60p 50p → 60p



中間フレームを生成します

すべてのデジタル動画コンテンツに対応します。
例えば、映像製作現場でのフレームレート変換の前段で
使用すれば、自然でなめらかな動画コンテンツへアップデー
トすることが可能です。
※プログレッシブ形式のRAWデータにのみ対応

Imaging × Innovation

お問い合わせ先

管理部 経営企画グループ

TEL: 03-3288-3288

E-Mail: m-info-ir@morpho-inc.com



Morpho